

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

「国の仕事なのに」新政権に困惑

諫早湾干拓で新政権に困惑

【佐賀新聞 11月2日】諫早湾干拓事業の開門調査と九州新幹線長崎ルートへの延伸問題をめぐり、佐賀、長崎両県が新政権の姿勢に困惑している。赤松広隆農水相は、開門について対立する両県での調整を要請、前原誠司国交相は新幹線の費用対効果の検証を求めた。

事業主体の国が地元「宿題」を課した格好だが、関係者からは「本来、国が行うべきことを地元委ねている」と戸惑いの声も上がる。

諫早湾問題では10月22日に古川康佐賀県知事が赤松農水相に開門調査の早期実現を要請。赤松農水相は国としての判断は示さず「まずは両県で話し合いを」と、開門に反対する長崎県側との調整を求めた。

古川知事は29日、日韓知事サミットで顔を合わせた金子原二郎長崎県知事と非公式に意見交換。今後の進め方を打診した古川知事に対し、金子知事は「面談の話は」正式な申し入れの後に検討するとし、具体的な進展はなかった。さらに「長崎県内にはいろんな考えの人がいる」と、開門反対の声の根強さを示唆。面談そのものを受けるかどうかの明言もなかった。

事態打開には、営農や防災面での長崎側の懸念を和らげる「説得材料」が不可欠になる。佐賀県に限らず、干拓訴訟の弁護団など開門を目指す側は、農業用水確保や新たな防災対策などに国が踏み込むことを求めている。

古川知事は、こうした課題を話し合う事務レベルの協議の場合は「事業主体の国が責任を持ってやるべき」とし、農水省に対応を求めている。しかし、同省が両県の仲介役として動くかの確約はなく、両知事の会談が実現するかは不透明な情勢だ。

大臣のリーダーシップを

佐賀県知事

【NBCラジオ10月23日】(記者) 昨日は赤松農水大臣と面会されたということですが、実際、お会いになって開門への手ごたえという部分はいかがでしょうか？

(知事) 農水大臣は、比較的、慎重な言い回しではありましたが、地元のことも、開門については、まずは地元同士でよく話し合いをしてほしいということを言われました。それはそれでやっていくんですが、それに付け加えて、これは国の事業なので、国としてもリーダーシップを発揮して

ほしいと私の方からお願いをしました。具体的には、農政局が主催して有明海の関係4県の水産関係の代表者と県の代表が集まる会議というのが設置されているのですが、ここでは、諫早湾干拓の話や、開門の話をしておりませんので、こうした場を使って基本的な話を進めていくということを通じて進めていただきたいと思います。強く申し上げました。政治と実務と両方を上手く検討していくことによつて、開門に向け、一歩も二歩も前進すると私は思っています。

長崎県知事に会談要請

開門巡り直接対話目指す

【読売新聞11月5日】古川(佐賀県)知事は4日、長崎県の金子原二郎知事に対し、国営諫早湾干拓事業の開門調査と有明海再生について会談に応じるよう、文書で申し入れた。11日までの返答を求めている。

古川知事が先月、赤松農相に開門調査の早期実現を要請した際、開門に反対している長崎県と地元同士で意見調整するよう求められたことを受け、トップ会談の開催を初めて正式に打診した。

しかし、金子知事は4日、来年2月の次期知事選に立候補しないことを正式に表明。会談が実現しても具体的な進展が望めない恐れがあるが、古川知事は「協議や連携をすべ

き課題はこれまで通り進める。有明海再生は待ったなしの状況。できるだけ早い時期に会談が実現するよう期待する」と意欲を示した。

社民党諫早支部中心に

【西日本新聞11月5日】

諫早湾干拓事業の潮受け堤防開門をめぐり、社民党諫早支部が10月中旬に主催した勉強会の参加者を中心にした市民団体「諫早湾干拓開門調査を求めめる諫早市民の会」(通称・開門調査百人委員会)が22日、諫早市新道町の市社会福祉会館で発会式を開く。同会の準備会メンバーの田添政継市議(社民党諫早支部代表)が明らかにした。

発会式で今後の運動方針を取り決めた後、開門調査を求める署名活動や、開門反対の諫早市や市議会にも協議の場を働き掛けるといふ。

同党諫早支部は10月末に全党員会議を開き、開門調査を求めることを既に決めている。田添市議は「今回の市民の会は党活動とは別であり、参加者も幅広く求めたい」と話している。

諫早堤防開門調査へ 諫早市で市民の会発会